

賑わう文化祭 多彩な催し



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,794人
男子	3,346人
女子	3,448人
世帯数	2,086戸
(12年10月末現在)	

二十世紀を締めくくる竜丘地区文化祭が、好天に恵まれ盛大に開催されました。例年になく数多くの展示と、工夫された催しとで終日賑わいました。来年度は、会場が小学校から新公民館に移るので、それを惜しむような気持ちになりました。

去る十一月十一、十二日の二日間に亘り、平成十二年度竜丘地区文化祭が、竜丘小学校を会場に開催されました。

開会セレモニーは、駄科下平の獅子の舞で、幕を開けました。

今年も地区民の日頃の学習、文化活動の成果を集め、様々なイベントを交えて大勢の地区民が参加されました。

二日間という短い期間に、多くの催しと展示があり、充実した楽しい一時を過ごしました。

今年は新しい試みが多く見られました。特別企画展では、竜丘に古くから伝わる獅子舞が展示されました。

駄科の下平と南平には保存会があり、今でも継承されています。



初めて行われたインターネット体験教室

また、新たな催しとして、小学校の協力を得て、今、急速に普及しているインターネットの体験教室が開かれ、三十名を超える親子が熱心に受講していました。児童センターのコーナーには、子どもたちが集まり紙こま作りを楽しんでいる姿が見られました。毎年このことですが、油絵や水墨画クラブの展示には、なかなかの力作があり、人々から「すばらしいな」という声が聞かれました。



地域の民俗芸能のおもしろさを楽しく見入っていました。

来場者は、地域の民俗芸能のおもしろさを楽しく見入っていました。また、新たな催しとして、小学校の協力を得て、今、急速に普及しているインターネットの体験教室が開かれ、三十名を超える親子が熱心に受講していました。児童センターのコーナーには、子どもたちが集まり紙こま作りを楽しんでいる姿が見られました。

史学会の展示は、「竜丘電気夜明け」という題で大正期に新川と久米川に造られていた発電所関係の資料が並べられ、当時の竜丘の先進的気風を知ることができました。

郵便局コーナーでは、「大人の学校」で学ぶ絵手紙クラブの皆さんの作品が展示され、日頃の楽しい活動の様子を知ることができました。各分館のコーナーには、地区の人たちの趣味として学んだ作品やコレクション

自然と文化財のめぐり合い 親子ふれあいハイキング 里の秋編

歩くことを楽しみながら健康を増進し、地域の文化や風土を体感する機会として、十月二十二日に今年度二回目の「親子ふれあいハイキング」が行われました。去年までは春の一回だけでしたが、好評につき今年度から春と秋の二回になりました。当日、四十余名の参加者の皆さんは、和気あいあいと楽しい一日を過ごしました。

今回のテーマは、「丘の里の秋をめぐり歩こう自然文化財を訪ねて」で、講師として歩こう会、桐林区の地形保存会、古墳を考えたなどが飾られ、日頃の生活の中で楽しまれていたことを窺うことができました。

長野原分館では、地域の生活環境をテーマにしたアンケートのまとめの展示があり、興味と関心を持って見ている人々がありました。今年のスポーツ祭は、新たに囲碁ボール、スローインボトル、フライングディスクが用意され大変盛況でした。

喫茶「おいしんぼプラザ」は、相変わらず人気があり、常に満員でした。商工会の餅投げ宝投げは、校庭に多くの人々を集め盛況でした。

大きな成果を挙げた文化祭も、二十一世紀の新しい幕開けに期待を寄せて終わりました。

調印されたのは、連合長と両自治会長、飯田市長が建設着工に合意する内容の「基本協定」と、ダイオキシン、硫酸酸化物など有害物質を規制し、環境保全に万全を期する内容の「環境保全協定」の他、下水道整備の促進や鈴岡公園の整備、土取場跡地利用など「新焼却場建設に係る地域振興に

取り場にできた新しい環境産業公園で二つの工場を見学しました。変わりゆく竜丘の姿に驚きました。

参加者は、竜丘の自然・文化財の素晴らしさを改めて知ることで、お昼には公民館委員の方々が用意してくださった豚汁に舌鼓を打ち、爽やかな食欲の

秋を満喫しました。このハイキングを通して、親子が十分に触れ合うことができたことは、大きな収穫となりました。ぜひ次回も多くの方の参加を望みます。

また、両自治会の協議で、「さらに次の施設更新時が来る際には、竜丘から別の場所へ移転させる」約束をしていることから、十年後をメドに改めて協議を行なう方針も確認した。

調印式には、飯伊十八町村長、両自治会関係者、地元市議ら約五十人が出席し、広域連合長の田中飯田市長が、「二十一世紀に相応しい施設の建設に傾注する」と決意を語ったのとは対照的に、原寛自治会長は「当地区にとっては苦渋の選択だった。飯伊住民にこのことを十分配慮してほしい」と訴えた。

広域連合が計画している

新ゴミ焼却施設は、現施設の北側約六千平方メートルに建設し、年間二百八十日程度の稼働を予定している。今後は、十一月に造成工事に着手し、来年三月に本体建設に着工、平成十四年十二月までに新施設を稼働させる予定だが、いずれにしても、竜丘のイメージダウンにつながることを祈りたいものである。

「ゴシック体文字のはんらんが、人間の感覚を鈍らせ書き文字文化を駆逐しかねない」と専門家が書いた記事を目にしたことがある。何のことだろうと思いましたが、まずこれを見比べてみてください。

①「今日は、とても楽しい一日でした。」
②「今日は、とても楽しい一日でした。」

どちらが見やすくまた落ち着きがありますか。ご存知のように、①がゴシック体で、②が明朝体です。ゴシック体は視覚的な刺激をもとめた、より記号的なもので、がやがやと叫ぶようなイメージを受ける。文字と対話し、落ち着いて読み、考える習慣を奪うこととなるのではと心配の声もあるそうです。

「ゴシック体文字のはんらんが、人間の感覚を鈍らせ書き文字文化を駆逐しかねない」と専門家が書いた記事を目にしたことがある。何のことだろうと思いましたが、まずこれを見比べてみてください。

①「今日は、とても楽しい一日でした。」
②「今日は、とても楽しい一日でした。」

どちらが見やすくまた落ち着きがありますか。ご存知のように、①がゴシック体で、②が明朝体です。ゴシック体は視覚的な刺激をもとめた、より記号的なもので、がやがやと叫ぶようなイメージを受ける。文字と対話し、落ち着いて読み、考える習慣を奪うこととなるのではと心配の声もあるそうです。

教科書、新聞など一般的には明朝体のほうが多いはずですが、雑誌やチラシなどはかなりゴシック体が使われています。

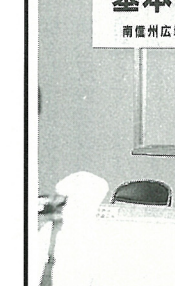
IT革命という言葉を目にしない日はありません。急速に普及しているパソコンの画面はゴシック体の独特な雰囲気ではないでしょうか。インターネットや電子メールの文章などでは、書体を変えて読む機能はあるものの、ゴシック体が標準設定となっており、無自覚に使っているケースも多くはないでしょうか。

ゴシック体のはんらんは、便利さを追求し、ワープロからコンピュータへと時代が生んだ文明により、文字を書き、読むといった文明を滅ぼしかねない一例ではないでしょうか。

情報を伝えるだけの記号的な文字ばかりでは、書き手の思いまでもが薄れかねません。

「さあ、いざ出発」

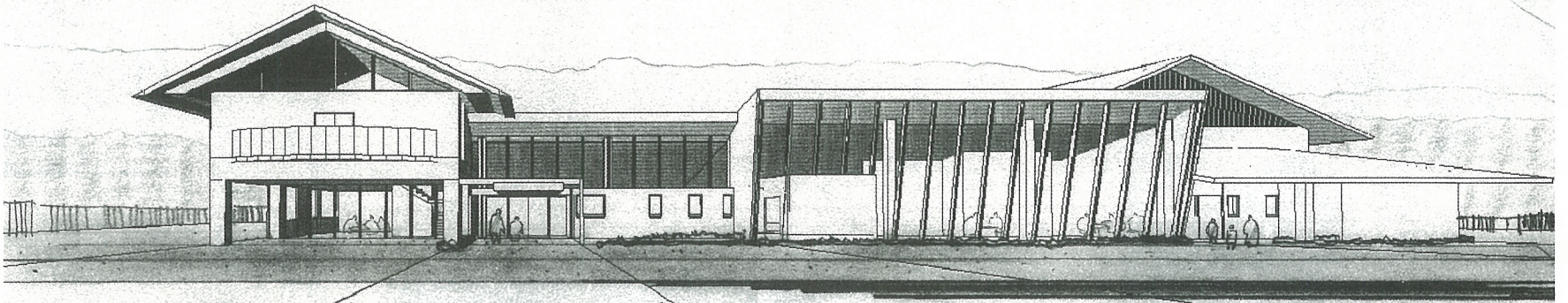
桐林クリーンセンター新焼却場建設基本協定・環境保全協定調印式



南信州広域連合・飯田市・竜丘地区自治協議会・伊賀良地区自治協議会

新公民館着工

— 来春完成に向けて —



— 正面（西側）から見る公民館のすがた —

地区民待望の新竜丘公民館の建設事業が大きく進展してきました。建設請負業者も決定し、去る九月二十五日には現地で起工式が開催され、来春の完成に向け着々と工事が進んでいます。

九月に開かれた市議定例会において、重要案件である建設請負契約が議決され、いよいよ本格的に事業が進展してきました。建設を請け負う業者は、

本体建築工事が木下建設株式会社、電気設備工事が山田電気設備工事株式会社、機械設備工事が三笠設備株式会社と決定しました。

また、環境に配慮したモデル的な施設として、パッシブソーラーシステム（太陽熱を冷暖房に補助活用する機能）を導入することになっていますが、これについては、本体建築を請け負う木下建設が進めることになりました。なお、この設備は、国の補助を受けて進められるものです。

立派な公民館の完成を祈願し、起工式を開催

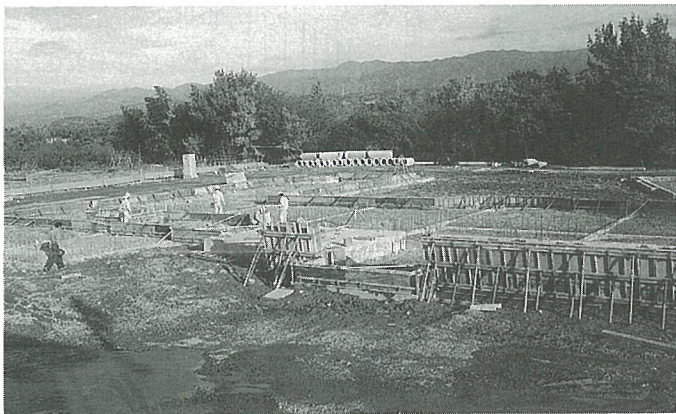
工事請負業者も決まり、契約も締結されたことで、工事が安全に進み、立派な公民館が竣工されることを願って九月二十五日に現地で起工式が挙行されました。

当日は、地権者の皆さんをはじめ、田中飯田市長、小林市議会議長、牧野教育委員長以下、教育委員会の皆さん、そして、公民館建設委員会の建設総務部委員の皆さんが出席しました。設計を担当した有限会社

工事を安全に進めるため、連絡会も開催

十月からは、大型重機が現場に入ることになりました。また、各種建設資材が多数運搬されてくることもあり、地域の方々の安全、とりわけ園児や児童の登下校の安全を確保することが大変重要です。このため、着工に先立ち、去る九月七日に竜丘小学校で会合が開かれています。

当日は、市教育委員会、市の建築課、土木課、小学校と保育園の職員、PTA、保護者会の皆さんなど多くの関係者と、工事請負業者並びに公民館建設委員会、桐林自治会の皆さんも出席しました。会合では工事の日程や工



工事の進捗に併せ、備品などの検討も進む

十一月になると、建設現場は多くの機材が運び込まれて活気を帯びてきました。この建設工事の進捗状況に合わせて、建設委員会では、設備や備品の購入についてどのようにするか、施設部が三班に分かれて検討を進めています。

「将来の見通しをしっかりと、丈夫で長持ちするものを配備する」という基本を確認して具体的な選定作業に入っています。一班は、主として会議室や集会関係の部屋の備品等を担当し、二班は、主として学習室や図書館、実習室等の備品について担当し、三班は主として、外回りの

あゝ無情の雨

来年へ期待、市民運動会

十月九日（体育の日）に予定していた竜丘市民運動会が、雨のため中止となりました。年に一度、竜丘の地区民が一堂に会しスポーツを通して交流できる、唯一の機会となるだけに大変残念でした。

当日の実施に向けて、各係は早くから相当準備をしてきたのです。準備係は、八日前に種目に合わせて、全員で予行練習をしました。また、審判係は、公正に運営するため、細部に亘って打合わせ練習をしてきました。

各分館の練習も相当盛り上がりがありました。実施できなかったことが悔やまれます。今回の分を含め、来年へ期待したいものです。なお、法律の改正で「体育の日」が変更となり、三連休の最終日が運動会となりましたが、体育委員会では、来年に向けて日曜日の開催や雨天順延の可能性など、より実施や参加がしやすいよう検討を行っています。今回の運動会



寄贈されたみごとな優勝旗

いどの道から、くるまの道へ

市民大学講座 第二講

今年度で二十二回を数える竜丘市民大学講座の第二講が、去る十月二十七日、竜丘公民館を会場に二十余名の参加者により、開催されました。

当日は、竜丘史学会会長の今村定男さん（時又）を講師に招き、「竜丘の道の歴史」と題して、どんな道が竜丘のどこを通過していたのか、皆で一緒に学びました。

講演に先立って配布された資料を基に、江戸時代の路線、下条街道から現在の

植樹などの環境整備に関する説明がありました。園児、児童の安全のための配慮や学校側からの要望が出され熱心に協議されました。万が一にも事故がないうよう、参加者一同それぞれの立場で確実に対応していくことが確認されました。

様々な手続きや段階を経て、新公民館建設事業が確実に進捗しています。来春には、すばらしい公民館が、地域の私たちの前に姿をみせてくれることを心から期待しています。

今、地域内の旧街道を通ることは完全にはできませんが、とどこころに昔の道標があるのを見つけて、昔を想像してみるのも楽しいことです。「車社会となってしまった今、一步一步あるく道を



講座に聞き入る参加者たち

忘れがちでした。講演を聞き、知らなかった昔の道が分かります。道に生活を感じる「ことが出来た」という、受ける講生の声がありました。又、